

2020年を振り返る



2020年1月、箱根駅伝で青山学院大学が大会新記録を打ち立て総合優勝して幕を開け、2月には新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、文部科学省から全国都道府県の小中学校および高校等を一齐に休校させる措置をとり、休校が長引くことによって夏休み等を短縮するなど、現在もなお授業時間の確保が難しい状況が続いています。

3月に行われている春の選抜高校野球大会も、新型コロナの影響により初の中止となり、その後も夏の全国高校野球選手権大会も中止。プロスポーツ界(野球・サッカー・大相撲等)も延期や中止が相次ぎ、何よりも東京オリンピック・パラリンピックが1年程度延期(来年7月23日開催)が決まるなど、希望に満ちたワクワク・ドキドキ感が封じ込められる複雑な結果となりました。

4月に入ると、新型コロナウイルスの感染者が急増し「緊急事態宣言!!」が発令され、身体的距離の確保(ソーシャルディスタンス)およびマスク着用といった『新しい生活スタイル』をはじめ、在宅勤務・時差出勤等の感染予防策が、全国民に対し呼び掛けられました。

7月には『あおり運転罪』を創設した改正道路交通法が国会で成立したほか、ついに「レジ袋の有料化」が全国のスーパーや小売店でもスタートしました。

なお、ここ数年続いている「大規模自然災害」が今年も九州地方を襲い、梅雨前線の停滞により記録的な豪雨で熊本県(球磨川)が氾濫し77人が死亡(行方不明:2人)しました。100年に1度の異次元レベル(降水量600mm超え)。

8月に発表された2020年4~6月期の国内総生産(GDP)は実質で前期比△7.8%減、年率換算で△27.8%減となり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「戦後最大の下落幅」となりました。

また、月末には安倍晋三首相が持病(潰瘍性大腸炎の悪化)を理由とし、辞任を表明しました。

9月には、再び九州に非常に強い大型台風10号が豪雨被害をもたらし、九州全域を暴風域に巻き込んで激しい風雨で6人(死亡・行方不明等)が出ました。

明るい話題として、テニス(全米オープン女子シングルス)で大坂なおみ選手が2年ぶりに優勝を飾り、白人警官殺害事件で殺害された黒人らの「名前入りマスク」を着用して、人種差別に対し問題提起する姿がマスコミの話題となりました。



安倍首相の突然の辞任に伴い、第99代首相として菅義偉氏が就任し新内閣が発足され、新型コロナ対策を筆頭に、経済再生および縦割り行政の打破等を掲げました。

10月に入り、今年を1番盛り上げ話題を独占したアニメ『鬼滅の刃』は、映画化され「劇場版・鬼滅の刃～無限列車編～」は累計興行収入が10日間で100億円突破の快挙を成し遂げ、今もなお子供達から大人まで幅広い世代に愛される『国民的アニメ』へと成長し、コロナ禍でも竈門炭治郎・禰豆子の兄妹が繰り広げるストーリーに『我々の日々閉ざされた生活』を忘れさせてくれる「勇気」と「感動」をもたらす、とても素晴らしい作品であります。もはや、国内の歴代興行収入「第1位」は文句なし間違いありません。

11月にはアメリカ大統領選挙を迎え、バイデン氏対トランプ氏の大接戦となった闘いは、来年1月20日の大統領就任式までゴタゴタした内容で進んでいくのでしょうか?選挙結果が覆ることがあるのかは分かりませんが、新型コロナ感染者・死者数が共に一番多い国「アメリカ」において、次期大統領となるバイデン氏が国民に対し『来年1月20日から100日間だけ国民にマスク着用(施設内)を求める』など、国民一人ひとりの行動がCOVID-19を大幅に減少させると訴えてはいますが、12月からの感染予防ワクチンの接種開始と共に、本当の成果(勝利)に結び付けることができるのか期待より不安が膨らみます。

12月(師走)を迎え、強い寒気と冬の気圧配置の影響で北海道から中国地方の日本海側を中心に、16日から記録的な大雪となり、特に新潟県・群馬県等の山沿いで雪が強まり、交通(車立ち往生・道路渋滞)の影響が大きく、雪崩・雪下ろし中の事故等も多発し、約2m近い積雪とコロナ対策に悪戦苦闘する年の瀬を迎えています。

この2020年を振り返ってきましたが、最初は店頭から「マスク」が消え、何軒も何軒もドラッグストア等をハシゴする日々を過ごすことに驚き、小学校等は休校、外食等は自粛(テイクアウト活用)、あらゆるイベント催し物等は延期および中止、繁華街・大型スーパー等は時間短縮および入店制限や臨時休業が相次ぎ、旅行も含め県外への移動制限、人と人の間隔を空ける、会話を極力減らす……窮屈であるばかりか、家族でさえ「一定の距離」を考えるほどに『神経質』になる状況のなかで一年を過ごしてきた訳であります。平凡な日常生活を過ごせる訳でもなく、目に見えない「ウイルス」との闘いは未だに先が見えていません。日々、新型コロナ感染者数は増加する傾向にあり「記録更新」の文字が当たり前になり、この1年間は「無抵抗なまま」「ただ怯え」「神に願う」人間の無力さだけを強く感じる内容でした。



現業(清掃)職場から労働災害を一掃するための職場集会!!



12月1日(火曜)に東部管理センターは11時30分から、西部管理センターは16時30分から各職場毎に『現業職場から労働災害を一掃するための職場集会』がそれぞれ開催されました。

1985年12月に連続して発生した清掃現場での死亡事故をきっかけに、再びこうした悲惨な事故を起こさない為にも、集会では労使が共に職場における「労働安全衛生活動の推進・労働災害撲滅」に向けて、関係法令の遵守は勿論のこと、労働衛生意識の高揚に努めていくことが、大変重要であります。

私たちが働く現業職場における「労働災害」には、仕事の性質上、重大な死亡事故・重症病(災害)等が、他の職種と比較しても起こりやすい特性を持っており、今年は更に世界的に猛威を奮う『新型コロナウイルス感染症』に感染・発症した事例も報告されており、今後もより一層の感染対策等も含めた予防に努めていかなければならない現状が続いています。

全国各地では、今年も多く自然災害(風水害被害)等が発生しており、豪雨災害復旧作業に従事する現業職員(民間労働者含む)への有害物および危険有害作業等に対する適切な対応についても、不備(不衛生)の現場も多く存在しているのが現状であり、こちらも改善・課題等が数多く残っています。

この間における、現業職場に対する『コスト論』のみを重視する安易な「合理化攻撃」の矢面に立たされた結果、人員削減(不補充)による強硬に推し進められた職場環境(仕事内容)が、肉体的・精神的余裕を奪いながら重大災害へと繋がる危険性を高めており、人間関係・職場環境の変化および任用替え(職変)等による様々な『メンタルヘルス問題』が深刻化しています。



現業職場で働く我々の生命を守ることは勿論、幸せな生活(家族)を守り続ける対策(体制)を今一度、真剣に議論をする必要があります。

私たちの清掃(現業)職場が行っている業務は、地域住民にとっては欠かすことのない重要な業務(廃棄物処理)であります。

特に、これからの年末年始は業務内容が繁忙を極め『労働災害事故』が多発する時期でもあり、この集会を機に「安全で快適に働ける職場環境」を整備することを、各職場全体で「一丸」となって取り組んで行きましょう!!

物損事故・公務災害・車両火災の発生状況

【2020年12月1日現在:東・西管理センター】

〔東部管理センター報告: 東度 所長補佐〕

- 物損事故…… 1件: ゴミ収集車(ミラー破損)
- 公務災害…… 3件: 回転板プレス時跳ね返り(頭部負傷)、カラスネットによる転倒(手首負傷)、害虫(蜂)による(頭部刺症)

● 車両火災…… 0件

〔西部管理センター報告: 鶴賀 所長補佐〕

- 物損事故…… 0件
- 公務災害…… 4件: 回転板プレス時跳ね返り(唇・目・顎負傷)、集積所での転倒による骨折
- 車両火災…… 1件: 金属ゴミ回収時に出火(消火後写真参照)

自治労

N市従労WS

第147号
発行2020年12月22日
金沢市従労組 情報宣伝部

